



(東京東北部)

東京・浅草永住町遺跡

あさくさながすみちよう

- 1 所在地 東京都台東区元浅草一丁目
- 2 調査期間 二〇〇六年(平18)一月～二月
- 3 発掘機関 台東区文化財調査会
- 4 調査担当者 小俣悟
- 5 遺跡の種類 寺院跡
- 6 遺跡の時代 江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
浅草永住町遺跡は台東区の中央、東京低地西側に立地する。共同住宅建設に伴う調査である。

近世に整地されたようであり、当地には切絵図等によれば江戸時代前期より日蓮宗善立寺が所在しており、調査地は境内地南側中央辺りにあたるようで、その位置には江戸時代後期頃の境内図では諸坊が見られる。墓域は江戸時代の境内図で

は不明であるが、明治時代前期頃の境内図では敷地西側となる。ちなみに善立寺は徳川家康の江戸入府とともに岡崎より移り、当初神田に所在し、当地には慶安元年(一六四八)に移転して来たようである。

調査は新築工事掘削と同時並行で実施せざるを得ないために墓以外は確認程度にとどめざるを得なかった。本調査の結果、主要な確認面が三面あり、南東側で墓域が二〇〇基以上、溝状遺構一条、性格不明遺構一基、中央部付近で杭が数本検出された。出土遺物は近世期～近代の陶磁器、土器類、金属製品などである。

木簡は一点であり、溝状遺構の壁面に打たれている矢板の一部として検出されている。溝状遺構は平面形は不整形を呈し、掘形の壁面には矢板、中央部には杭が打ち込まれていた。主軸方向は東西南方向で西側は旧建物の影響で確認できなかったが、おそらく敷地外まで延びていたと推測される。機能については溝より南側で墓域が多く検出され、北側ではほとんど確認されていないため、墓域とその他の地域を分ける境界施設とも考えられる。

墓標には一七世紀第IV四半期～一八世紀第I四半期の紀年銘が多く刻まれており、墓域が一七世紀第IV四半期頃までには造営されていたと考えられるが、溝の構築時期は不明である。

8 木簡の积文・内容

